

【グループワーク記録】

■第1グループ

討議① 福祉の課題	討議① 課題解決の方策
・複合的な課題や制度の狭間問題への対応	・福祉のプロ・ナビゲーターの育成・運用
・福祉の課題は複合的であるので有機的取組が必要	・総合的相談窓口
	・人材の育成
・誰もが積極的に社会と関わる仕組の構築	・ホームページ、SNS、メール等、一般の人々や区の職員（社協）が“福祉”に関して意見交換できる“場”の創設
・情報	・わかりやすさ
	・ありか →その周知は？
	・内容
・地域のつながり	・先ずは顔を合わせる。 ・イベント・場
・②福祉 避難所 在り方 (6-1)	・広域避難の仕組作り
	・今あるものの活用、支え合い
・10-1①社会の人権や多様性への理解不足	・教育（知識）
	・多世代交流の場（互いを知る）
・地域社会の問題解決能力を向上させる	・活動する市民（NPO等）を積極的に育成・活用すること

分類	討議② 将来像
将来像	・安心して暮らせる地域。その土台として様々な人のつながりや教育。
各委員の提案	・安心
	・空間、時間
	・安心して暮らせる地域
	・“もっと福祉を日常に”（教育）（育成）（場）
	・活動する市民ボランティアの再構築
	・ゼネラリストとスペシャリストの有機的結合
	・教育

■第2グループ

討議① 福祉の課題	討議① 課題解決の方策
・ 地域の見守りや早期気づきが困難	・ 相談できる場所を明確にする（人材育成）
	・ 問題を明確にする
・ 複合的な課題や制度の狭間問題への対応	・ 介護の支援者が家族内で行うのではなく、支援の窓口を広げていく
・ 生活困窮者に対する支援の在り方	・ 総合相談に対応できる人材の育成
	・ ネットワークの構築
・ 併走型・アウトリーチ型支援	・ 分野別のアウトリーチスキルを持った人材育成
	・ 孤立化させない為にも重要
・ 多様な人々が交流できる施設、教育、保育、バリアフリー化	・ 学校教育の場で多様な人々と交流する場
・ 地域活動のコミュニティの場づくり	
・ 誰もが積極的に社会とかかわる仕組みの構築	・ 地域交流ができる時間づくり
・ 身近に集える場不足	・ 集会所の運営方法
	・ 空き店舗、空き家の利用
・ ボランティアの確保、育成手法	・ 人材を行政主導にて行う施設を立ち上げる
・ コーディネートの仕組み	

分類	討議② 将来像
将来像	・ 一人ひとりが顔が見える関係を築ける社会
各委員の提案	・ 一人ひとりが生き生きと生活し、自分の夢を実現できる社会
	・ 総合福祉
	・ 様々な立場の人が協力して課題に取り組める体制
	・ 福祉：生活（家庭）－仕事（働く）－心、精神、安心（相談）
	・ 人：人がつながりの場
	・ 「人間の幸せ」
	気軽に相談できる場
	・ 一人ひとりの尊厳が守られる社会
	・ 誰も孤立しないで生きられる社会
	・ 多様な生活観・宗教、共に受け止め・受け入れ
・ すべての人と地域がつながった安全で幸せになる町	

■第3グループ

討議① 福祉の課題	討議① 課題解決の方策
・共生社会への意識向上 (10-1)	<ul style="list-style-type: none"> ・団体同士の意見交換 ・区民への学習会？ (交流の場) ・区報、ホームページの活用
・情報の適切な活用を図る (8)	
<ul style="list-style-type: none"> ・行政内部の連携 ・組織横断的な相談支援体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い切った組織の見直し
	<ul style="list-style-type: none"> ・人事異動 (短期での異動を見直し福祉に詳しい人材を確保する)
・複合的案課題な制度の狭間問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマル、インフォーマルそれぞれコーディネートする人材又は機関
・地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・町会・自治会等の相互の交流 (会同士) を深め他の会のやり方他参考になる事を学び合う
・集いの場	<ul style="list-style-type: none"> ・団地の集会施設や商店街の空いている他、身近な場所の活用
・地縁団体等の活性化	
・地域資源の活用が不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、団体、区、関係機関等をつなぐネットワークを構築する仕組みをつくる

分類	討議② 将来像
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・つながり
各委員の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・“身近か”
	<ul style="list-style-type: none"> ・あそこに行けば何とかなる安心感が持てる生活
	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりをつくる
	<ul style="list-style-type: none"> ・つながり
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの福祉教育 (人材育成)
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材育成
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉をもっと明るく楽しく、さりげなく、日常に。

■第4グループ

分類	討議① 福祉の課題	討議① 課題解決の方策	討議メモ	
①	・ボランティアの育成・コーディネート	・わかり易い説明や活動の場	・障害福祉センター等での体験 ボランティアがある ・ボラ登録カードが活用されていない	
	9-1①・ボランティアの確保・育成手法のコーディネートの仕組の検討	・ボランティアの集いの場の設定 ex. オリパラ都市ボランティア		
		・ボランティアのインセンティブの設定		
		・ボランティア育成のための専門家の設定		
	9-1・福祉人材	・ボランティアの定義		
		・ボランティアに何を求めるか		
		・ボランティア—NPO—福祉事業者（企業）の間が活用されていない		
・福祉の定義・場の設定→ケアを受ける。経済支援を受ける。誰もが				
・専門職の働く場の創出				
・社会の人権や多様性への理解不足	・教育（学校）			
・誰もが積極的に社会と関わる仕組の構築	・多様性を理解すること			
②	1-1①・身近に集える場の不足	・民間の区民の集まる場の提供 ex. 商業施設		
		・集える場においてボランティア、福祉サポートの有益な情報提供		
		・区の職員ではなく ICT やボランティアなどを活用した情報提供		
	1-1①・気軽に集える場の創設	1-1①・集まる人に応じた専門職 1-1①・提供するサービスの種類（多様な人が参加するために）		
③	1-3①・身近な相談支援体制の充実	1-3①担当者と各々の専門職とのネットワーク作り	・インフォーマル単独でネットワークは難しい ・フォーマルとインフォーマルの連動が必須	
		1-3①・ICTの利用も		
	1-2・地域ネットワーク（インフォーマル）	・新しい生活様式の中での課題 ・様々なつながりのある既存のスキーム生かされていない		

	<ul style="list-style-type: none"> ・行政・社協・自前の既存のスキームを理解されていない→活用 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・仕組の構築→ICT化 	

分類	討議② 将来像
将来像 1	<ul style="list-style-type: none"> ・住みたい町、住み慣れたまちで（安心・安全に） ・安心して暮らせる ・笑顔で暮らせる
将来像 2	<ul style="list-style-type: none"> ・生きやすい町 ・生きがいのある町 ・一人ひとりが生き生きと生活し、自分の夢を実現できる社会 ・それぞれに希望の持てる社会 ・参加できる声を届けられる ・協働なくして共生なし
将来像の基礎 （土台として）	<ul style="list-style-type: none"> ・カチカチしていないこと（余裕） ・間口が広い ・敷居が低い ・オープンマインド！ ・人権意識
将来像の実現方法①	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材育成 ・ボランティア育成
将来像の実現方法②	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる場 ・気軽に相談に行けるまちの中で（結局ママ友、お店の人など） ・身近な人との関りがある
将来像の実現方法③	<ul style="list-style-type: none"> ・他世代のかかわり ・若い世代の参画
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の場の周知 ・関連団体の連携 ・福祉に対する考え方の共有